

小児インフルエンザ予防接種のご案内



令和7年度から、生ワクチン(点鼻薬)も助成の対象となりました。
これまでの不活化ワクチン(皮下注射)または生ワクチン(点鼻薬)のどちらかを選択してください。

医療機関によって対応しているワクチン・年齢は異なりますので、
接種希望の医療機関にお問い合わせください。

| | |
|----------|--|
| 助成期間 | 令和7年10月1日 ~ 令和8年1月31日 |
| 助成対象者 | 満1歳~高校3年生相当年齢まで |
| 助成金額 | 13歳未満 ⇒ 2,000円^{※①}を2回^{※②} 13歳以上 ⇒ 2,000円^{※①}を1回^{※③} <small>※①自己負担額は医療機関が定めた接種料金から助成金額を差し引いた金額になります。 ※②生ワクチン(点鼻薬)の場合は2歳以上が対象で1回のみになります。 ※③13歳の誕生日を迎えた方は、2回目の予防接種助成を受けることができません。 ただし、医学的な理由で医師が必要と判断した場合は、母子健康手帳を持参し、健康増進課までお越しください。</small> |
| 接種場所 | 大洗町及び水戸市の協力医療機関 (別紙「協力医療機関一覧」参照) ＜大洗町及び水戸市の協力医療機関以外で接種を受ける方へ＞ 同封の予診票を使用して予防接種費用の助成を受けることはできませんのでご注意ください。 ただし、医療機関に予防接種費用を全額自己負担で接種後(2回接種の場合は、2回目接種後)、下記の通り予防接種償還払い申請をすることで、後日、指定された口座へ助成金が振り込まれます。 ●申請に必要な物: ・領収書原本(本人氏名・予防接種名・日付・接種費用・医療機関名が記載されているもの) ・振込先金融機関の口座番号・支店名が分かるもの ・母子健康手帳 ●申請先:大洗町健康増進課(ゆっくら健康館1階:平日 8:30~17:15) ●申請期限:令和8年3月末日まで |
| 接種当日の持ち物 | <input checked="" type="checkbox"/> 予診票 <input checked="" type="checkbox"/> マイナ保険証 <input checked="" type="checkbox"/> 母子健康手帳 <input checked="" type="checkbox"/> 自己負担金  |

《お問い合わせ先》 大洗町健康増進課 TEL:029-266-1010

インフルエンザ予防接種の効果や副反応について、 理解してから接種をしましょう！

インフルエンザってどんな病気？

季節性インフルエンザは急性呼吸器感染症で、発熱・悪寒・頭痛・筋肉痛等の全身症状が突然あらわれます。潜伏期は24～72時間です。呼吸器症状は遅れて出現することが多く、鼻閉・咽頭痛・せき等です。合併症がなければ2～7日で治癒します。合併症、特に肺炎や脳症を併発した場合は重篤となります。

ワクチンの種類と効果は？

ウイルスの毒性を失わせた不活性化した不活化ワクチン（皮下注射）とウイルスが作り出す毒素の力を弱めた生ワクチン（点鼻薬）の2種類があります。2種類のワクチンの有効性に大きな差はなく、6歳未満の小児を対象とした研究では、発病防止に対するワクチンの有効性は60%と報告されており、発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては一定の効果があるとされています。



ワクチンの副反応は？

不活化ワクチンの主な副反応は、接種した部位の赤み・腫れ・痛みです。発熱・悪寒・頭痛・倦怠感等がみられることがありますが、通常2～3日中に治ります。

生ワクチンの主な副反応は、鼻閉・鼻漏・咳嗽・咽頭痛・頭痛等がみられることがありますが、多くの場合1週間程度で軽快します。

過敏症としてまれに発疹、じんましん等、重い副作用としてごくまれにショックやアナフィラキシー等がみられることもあります。

不活化ワクチンでの特徴は？

皮下注射を13歳未満の場合、2回接種することが推奨されています。2回接種する場合の間隔は2～4週間ですが、より免疫効果を高めるためには3～4週間隔で接種することが最適です。ワクチンは、鶏卵を原材料として製造されており、ごく微量の鶏卵由来成分が残っているため、まれにアレルギー症状がおこることがあります。卵アレルギーの方は、接種要注意者に該当するため、主治医とよく相談のうえで接種をご検討ください。

生ワクチンの特徴は？

鼻へ噴射するため、針を刺す必要がなく、1回分で完了できます。点鼻薬接種後は、積極的に吸入（鼻ですする）する必要はありません。点鼻薬接種後1～2週間後は、鼻咽頭分泌物中にワクチンウイルスが排出する可能性があり、水平伝播の可能性があるため、重度の免疫不全者との接触は避けてください。また、ワクチンに精製ゼラチン含有しているため、ゼラチンアレルギーの方は等で皮膚に発疹が出たり、体の具合が悪くなったことがある方は、主治医とよく相談してください。

効果的な接種時期は？

インフルエンザウイルスは、毎年のように変異しながら流行を繰り返しているため、予防接種は毎年必要です。インフルエンザの流行は、通常12月下旬～3月頃のため、遅くとも12月中旬までに接種することをおすすめします。また、予防接種とあわせて、手洗いやうがい等の感染予防行動を心がけましょう。

